

A 班の整理表

特徴：コスト負担と少子化への危機感が強く、D 案・E 案の現実性や教育効果にも関心が向けられている。

案	メリット	デメリット・懸念	条件・留意点
A 案	・新しい設備で学べる・避難所機能の確保が期待できる・歩いて通学でき、地域の拠点や母校が残る・地域に根差した教育がしやすい	・コストが非常に大きく、次世代への負担が大きい・少子化により小規模校化や複式学級化の懸念がある・少人数により社会性を育てにくい可能性がある	・落合保育園の存続に不安がある・児童生徒数を見据え、空き教室があるのに新築過多とにならないよう留意が必要
B 案	・一定の児童数が確保され、社会性や多様な人間関係を育みやすい・極端な小規模校が解消される・中学校統合で大きな問題が生じていない点は参考になる	・費用は比較的高い・通学にバス対応が必要となり、登下校の体験が変わる・地域から学校がなくなる・どの地域に学校を残すのか見当が必要	・スクールバスの整備が必要・新設の場合は場所や用地の確保が課題・中学校との位置関係の検討が必要・保育園を減らすことが出生数減少につながらないか留意が必要
C 案	・地域に学校が残る・母校や避難所、防災拠点を維持できる・A 案よりはコストを抑えられる	・小規模校が3校残ることへの懸念がある・A 案同様に少人数化の不利益が残る・案外コストが高い	・避難所は在校生がいない方が収容力が高い面もある・町民への周知が十分でない可能性がある・長期的な持続可能性の見通しが必要
D 案	・コスト面で有利との評価が強い・小さいうちから人間関係を育みやすい・小学校と保育園の交流、新たな行事の可能性がある・地域に学校が残り、防災面でも一定の安心感がある・家庭の送迎負担が軽くなる可能性がある	・通園距離の課題がある・将来の少人数化や閉校不安は残る・小学校と保育園が近接することによる音や環境面の課題がある・将来への制度的制約が強くなる可能性がある	・補助金返還の有無の確認が必要・保小同居の先例確認が必要・住民への周知と理解形成が重要
E 案	・長期的・一貫的な教育体制が期待できる・児童生徒数を確保しやすく安心感がある・スクールバス運用をまとめやすい・運営コスト面では有利・更なる少子化に対応できる	・小学生と中学生が同一環境でうまく過ごせるか不安がある・地域が寂しくなる・避難所減少への対応が必要・集約後に問題が起きた場合、解決の選択肢が限られる	・子ども数の将来動向を踏まえる必要がある・移行のタイミングが難しい・広い駐車場確保が必要・中学受験など進路選択への影響も留意が必要

B 班の整理表

特徴：保護者負担や徒歩通学の価値、I ターン・U ターンを含む「選ばれる町」の魅力づくりが強く意識されている。

案	メリット	デメリット・懸念	条件・留意点
A 案	・親の負担が今のままで済む・当面は現状を維持できる・地域の良さを維持しやすい・危機感が新たなアイデアを生む可能性がある	・子どもが減れば成り立たない・維持コストが大きい・現状維持への限界がある	・改修しない考え方もあり得る・出生数規模に対して 5 園は過大との見方がある
B 案	・子どもの関わりが増える・ある程度の規模の集団で成長できる	・スクールバス中心でよいのか、歩く価値が失われる・親の送迎負担が変わる・学校になじめない場合の不安・地域とのつながりが弱まる・現状変更への抵抗感がある	・学校は町の中心でなくてもよいという意見がある・歩かせたいという価値観も踏まえる必要がある・I ターン/U ターン政策の強化、宅地整備、出産支援、魅力ある学校づくり、無償化などと一体で考える必要がある・今後は学校が選ばれるという視点が必要
C 案	・地域バランスを保ちやすい・学校が残ること で地域に元気が生まれる・徒歩通学の風景が地域の魅力になる	・子どもの数と施設数が見合わない可能性がある・少人数すぎると遊びや学びの幅が狭まる・地域とのつながりの維持に工夫が必要	・I ターン/U ターン政策の強化が必要
D 案	・コスト面で理解が得られやすい・子どもの新しい関係性が生まれる可能性がある・U ターン者にとって母校が残る意味がある・送迎負担軽減が期待できる	・地域とのつながりをどう維持するか課題がある・地元と移住者の関係性への懸念がある・子どものハングリー精神が見えにくいとの意見がある	・私立小中の設立受入れや廃校活用の検討余地がある・地域との関係づくりが必要
E 案	・一極集中で維持コスト面は有利・関係性の継続がしやすい	・教育の多様性への不安・学校になじめない場合の逃げ場が少ない・廃校地区の移住魅力低下・小 4 までの文化への違和感・防災時の避難所機能に不安	・地域とのつながりをどうするかが課題

C 班の整理表

特徴：地域コミュニティの維持・再構築を重視しつつ、教育体制や移住促進を含めて条件整備を具体的に考えている。

案	メリット	デメリット・懸念	条件・留意点
A 案	・通学通園距離が変わらず、保護者負担が少ない・各地区に学校と園があり地域維持につながる・避難所を確保しやすい・新設により教育環境改善が期待できる・きめ細やかな教育の維持	・最もコストがかかる・将来の財政負担が大きい・複式学級や友人関係の狭さが懸念される・支援級や教員確保が難しくなる可能性がある	・移住促進について誰が何を担うのか明確化が必要・現状以上の子ども数をどう確保するかが課題
B 案	・多様な人間関係を築きやすい・教員確保や教育体制の柔軟化がしやすい・必要な教育サポートを整えやすい・学年規模が安定する・保育園の規模の適正化・学校施設の新たな活用	・地域から学校がなくなりコミュニティの弱体化が懸念される・通学距離が長くなる子どもが増える・移住や集落の魅力低下につながる可能性・避難所が減る	・学校に依存しない地域コミュニティの価値づくりが必要・地域とのつながりを工夫する必要・スクールバスの確保運用・空いた学校の活用が必要
C 案	・小規模校の良さを維持できる・地域のつながりやコミュニティを守りやすい・学校は残しつつ保育園は適正化できる・避難所機能を維持できる	・少人数化が進むと学びの幅が限定される・費用がかかる・保育園減少による送迎負担増がある・中学校進学時のギャップへの不安が残る	・心理的サポートが必要・高学年からの他校交流など、中学進学前の関係づくりが必要
D 案	・保護者同士も含めて保小で長く交流できる・保小連携が強化され異年齢交流が進む・小学校への移行がなめらかになる・地域コミュニティ維持にもつながる・コストを抑えやすい	・長期間同じ人間関係が続く苦しさがある・未満児にとっては環境が厳しい場合がある・学校ごとの人数差や教育差が生じる可能性がある	・児童数維持や移住促進策の明確化が必要・配慮の必要な子どもへの対応が必要・富士見町の暮らしやすさの発信が重要・未満児保育体制の整備が必要
E 案	・小中の連携や教育の一貫性が高まる・人間関係の多様化や活動の選択肢拡大が期待できる・中学進学時のギャップを減らせる	・小学生にとって規模が大きくなりすぎる可能性・一極集中で地域の特色を出しにくい・避難所が少なくなる・小中一体化への心理的抵抗がある	・避難所のあり方検討・学校運営の工夫・地域コミュニティの新たな価値づくり・地域とのつながりの構造化・スクールバス運行が必要

D 班の整理表

特徴：教育の質向上や保小・小中連携の可能性を重視しつつ、施設維持や将来人口を踏まえた制度設計に関心が高い。

案	メリット	デメリット・懸念	条件・留意点
A 案	・新校舎で過ごせるため子どもや保護者の心理的負担が少ない・通学負担が少ない・地域防災上有利・管理職や教職員体制を維持しやすい	・コストが大きい・少子化が進んだ後の持続性に不安がある・複式的な合同学習が必要な学年が出る可能性がある・費用の割に新しさが乏しいとの見方もある	・少子化がさらに進んだ後を見据えて進める必要がある
B 案	・小中への接続が比較的スムーズ・規模の大きさによる教育環境の充実が期待できる・一つの理念のもとで学びを深めやすい	・通学負担が増える家庭が出る・ハード面のリスクが大きい・地域ごとの特色が薄まる・管理職減により協議の場が減る可能性	・通学サポート体制が必要・残らなかった校舎の活用が課題・スクールバス運行上の留意点整理が必要・どの園を残すか丁寧な説明が必要
C 案	・地域防災上有利	・保育園運営の維持が課題・少子化が進む園で存続危機が生じ得る・維持管理費が大きい	・3校と3園の組み合わせをどうするか明示が必要
D 案	・保小連携・交流がしやすい・地域の特性を生かした学びができる・小規模校の良さを維持できる・経費面で有利・地域防災上も有利	・保育園から小学校への新しい出会いが減る・学校や園ごとに経験の差が生じる可能性がある	・義務教育学校の考え方や学年区分の再検討余地がある・教科担任制やリーダーシップ育成も含めたカリキュラム改編・行事見直しが必要
E 案	・小中の一貫した教育が望める・部活動やクラブ活動面で利点がある・教科担任制による学力向上が期待できる	・地域の特色が薄れる・通学負担がある・義務教育学校としての集約は時期尚早との意見がある・一度関係性が悪化すると不安が残る・一極集中への防災上の懸念がある	・スクールバス運行に留意が必要・廃校舎の活用検討が必要・将来の児童生徒数推計を踏まえた長期見通しが必要

E 班の整理表

特徴：子どもの心理的安全性や、配慮が必要な子どもへの支援体制を重視した議論が中心となっている。

案	メリット	デメリット・懸念	条件・留意点
A 案	・新しい施設で過ごせる満足感がある・生活リズムが大きく変わらない	・費用が高く、次世代への負担が大きい・変化が少ないこと自体を課題とみる意見もある	・財源確保が必要・配慮の必要な子どもへの支援充実が必要（すべての案に共通）
B 案	・クラス替えにより新しい友達ができる・多様な人間関係により気持ちを切り替えやすい	・先生も子どもも逃げ場がなくなる懸念がある・地域の理解を得にくい・通学方法の検討が必要・避難所が減る	・通学方法とドライバーの確保が必要・地域住民の理解が必要・地域が学校に関わる仕組みづくり
C 案	・5 園維持よりは費用をかけやすい・目の届きやすい教育ができる	・少人数校に通わざるを得ない負担感がある・教員確保への不安がある	
D 案	・教育効果に期待できる・新しい教育環境として町の魅力発信につながる・コスト面で有利	・複合化による新たなデメリットが生じる可能性がある	・前例が少ない形のため十分な支援体制が必要
E 案	・多くの子どもと関わることで経験や思考形成につながる・中学生が身近な目標になる・コスト面で有利・高学年から中学校への一貫教育がしやすい	・プール授業など施設面の課題・いじめを見つけにくくなる懸念・避難所が減る	・小学校段階に対応した施設整備が必要・避難所確保

全体の総合整理表

全体傾向

全体として、A 案・C 案は「地域性や通学負担の少なさ」、B 案・E 案は「一定規模の集団による教育効果」、D 案は「コストと地域性、新しい教育のバランス」が主な論点となっている。

一方で、どの案でも「少子化への対応」「通学・通園手段」「地域コミュニティの維持」「防災機能」「配慮が必要な子どもへの支援」が重要な条件として共通して挙げられている。

「どの案にも一長一短があり、単純な優劣では決めにくい」という認識が見られた。

案	主なメリット（評価された点）	主なデメリット・懸念（課題）	実施する場合の条件・留意点
A 案	・通学通園の負担が変わらず、保護者負担が小さい・地域に学校や園が残り、母校・地域拠点・避難所機能を維持できる・新しい施設で学べる安心感がある・小規模環境を望む層には適している	・5 案の中で最もコスト負担が大きい・少子化により小規模化や複式学級化が進む懸念がある・多様な人間関係や社会性の面で制約がある・将来的に再度統廃合議論が必要になる可能性がある	・将来の児童生徒数減少を見据えた長期見通しが必要・財源確保が必要・移住促進や子育て支援策と一体で考える必要がある・配慮が必要な子どもへの支援充実が必要
B 案	・一定規模の集団が確保され、多様な人間関係や社会性を育みやすい・教員体制を整えやすく、教育の柔軟性が高い・小中接続の円滑化が期待できる・小規模校の課題を解消しやすい	・通学距離の増加や通学方法への不安が大きい・地域から学校がなくなることによってコミュニティや移住魅力が低下する懸念がある・学校になじめない場合の逃げ場が少ない・避難所機能の減少が課題	・スクールバス等の通学支援体制が不可欠・学校に依存しない地域コミュニティの再構築が必要・廃校施設の活用検討が必要・残す保育園の考え方について丁寧な説明が必要・配慮が必要な子どもへの支援が必要
C 案	・地域に学校を残しながら保育園は一定程度整理できる・地域コミュニティや防災拠点を維持しやすい・少人数で目が届きやすい教育が可能・A 案よりはコストを抑えられる	・少人数化による学びや人間関係の幅の狭さが残る・施設維持コストは依然として大きい・保育園減少による送迎負担が一部で増える・中学進学時のギャップへの配慮が必要	・高学年段階での他校交流など関係づくりが必要・心理的サポート体制が必要・移住促進や児童数確保策が必要・3 校 3 園の組み合わせを含め、具体像の明確化が必要

案	主なメリット（評価された点）	主なデメリット・懸念（課題）	実施する場合の条件・留意点
D 案	・コスト面で比較的有利で、理解が得られやすい ・保小連携や異年齢交流など新しい教育の形が期待できる ・地域に学校が残る安心感がある ・保護者負担軽減や移住促進の魅力にもなり得る	・長期間同じ人間関係が続くことへの不安がある ・少人数化そのものの解決にはならない ・保育園児にとって環境が過酷になる可能性や施設面の制約がある ・学校や園ごとの差が生じる可能性がある	・保小複合化の先例確認や制度設計が必要 ・カリキュラムや行事、学年区分の見直しが必要 ・住民理解の形成が重要 ・配慮が必要な子どもへの支援充実 ・移住施策や魅力発信と一体的に進めることが必要
E 案	・小中一貫・連携による長期的な教育効果が期待できる ・教科担任制や多様な集団形成など教育面の強みがある ・コスト面では比較的有利 ・スクールバス等の集約運用がしやすい	・小学生と中学生の同居に心理的抵抗がある ・一極集中により地域の特色や地域コミュニティが弱まる ・避難所減少や防災面の課題がある ・人間関係が固定化・悪化した場合の不安がある	・スクールバス等の交通手段確保が必要 ・小学生に配慮した施設整備が必要 ・地域とのつながりを維持する仕組みが必要 ・廃校活用や避難所再編の検討が必要 ・将来推計を踏まえた長期的な検討が必要